

First Semester of ABP undergraduate program
(5th batch) (Annual Report(2nd semester,
2019-1st semester, 2020) VIII Asia Bridge
Program)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 良造, 佐川, 祥予 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028205

VIII アジアブリッジプログラム（ABP）

初学期教育（第5期生）

静岡キャンパス担当：佐々木良造

浜松キャンパス担当：佐川 祥予

1. コースの概要と目標

アジアブリッジプログラム（以下、ABP）は平成27年（2015年）度から開始され、インド、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマーの5か国からの留学生を対象としたグローバル人材育成プログラムである。ABPの留学生は10月に入学し、最初の半年間で日本語科目と文系基礎科目あるいは理系基礎科目の集中教育を受ける。この半年間を「初学期教育」と呼んでいる。その後3年半、所属学部で学び、計4年間で学士課程を修める。

初学期教育は、基礎日本語科目10科目および文系基礎科目（「日本の社会」、「日本の歴史」、「日本の地理」、「日本の政治」、「日本の経済」）または理系基礎科目（「基礎数学」、「基礎物理学」、「基礎化学」、「基礎生物学」、「基礎統計学」）の計10科目から、留学生の所属学部が求める科目を3科目ないし4科目受講する。ABP基礎日本語科目10科目と合わせて、13～15科目を受講する。なお、初学期教育期間に取得した単位は、本学卒業のための単位として認定される。

ABP基礎日本語の10科目は、大学で学ぶにあたって求められる日本語能力、いわゆる「アカデミックジャパニーズ」の涵養が主たる目標であるが、初学期教育を受講する学生の日本語能力を考慮し、アカデミックジャパニーズの基礎となる言語知識（文法・語彙）を補いつつ、レポート作成、プレゼンテーション、講義理解などの言語活動を授業に取り入れている。

ABP文系基礎科目および理系基礎科目は教授言語として日本語を用い、翌年4月からの大学1年前期の授業に備え、日本の高校卒業レベルの基礎学力を身につけることを目標としている。

初学期教育は静岡大学の学事暦の後期に開講されており、試験期間を含め、令和元年10月1日から令和2年2月10日まで行われた。

2. 静岡キャンパスにおける初学期教育について

2. 1. 受講者

ABP 5期生13名の所属学部は以下のとおりである。

人文社会学部・言語文化学科－1名

人文社会学部・経済学科－5名

人文社会学部・社会学科－2名

理学部・化学科－1名

理学部・地球科学科－1名

情報学部・情報社会学科－1名

情報学部・行動情報学科－2名

（ベトナム国籍10名、インドネシア国籍3名）

2. 2. 時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40-10:10	ABP 基礎日本語Ⅰ	ABP 基礎日本語Ⅱ	ABP 基礎物理学	ABP 基礎日本語Ⅳ	ABP 基礎日本語Ⅷ
3・4時限 10:20-11:50	ABP 基礎日本語Ⅵ	ABP 基礎日本語Ⅶ	ABP 基礎日本語Ⅹ	ABP 基礎日本語Ⅸ	ABP 日本の地理
5・6時限 12:45-14:15	ABP 日本の経済	ABP 基礎日本語Ⅷ	ABP 基礎生物学	ABP 基礎統計学	ABP 日本の政治
7・8時限 14:25-15:55	ABP 日本の社会	ABP 日本の歴史	ABP 基礎化学	ABP 基礎日本語Ⅴ	ABP 基礎数学
9・10時限 16:05-17:35			ABP 基礎日本語Ⅲ		

2. 3. 各科目の内容

・ ABP 基礎日本語Ⅰ（多読）

目 標：日本語で書かれた本を大量に読むことを通して、辞書を使わずに大まかな内容を理解することができるようになる。

内 容：辞書を使わずに日本語で書かれた本を読む練習をする。辞書を使わずに読むために、最初はやさしい日本語で書かれた薄い本から読み始め、徐々にレベルを上げる。わからないところがあっても、無視して読み続け、一冊の本のだいたいの意味を理解することができるようになる。読後の活動として、読んだ内容を他の人と話したり、書いたりする活動を行い、読んだ内容をより深く理解する。

使用教材：『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』レベル0～5（アスク出版）、『にほんご多読ボックス』（大修館書店）、『どんどん読める！日本語ショートストーリーズ』vol.1～3（アルク）ほか

・ ABP 基礎日本語Ⅱ（精読と発表）

目 標：日本語で書かれた新聞記事を詳細に読み、読んだ記事を他者に説明することができるようになる。

内 容：新聞記事に書かれた内容を詳細に読み、読んだ新聞記事の内容を補うための資料を探す。それらの記事を読んだことがない人にどのように説明するか考え、ポスターを作成し、プレゼンテーションを行う。

教 材：なし。様々な分野で現在活躍している人を紹介する朝日新聞の記事「ひと」を精読の素材として利用する。

・ ABP 基礎日本語Ⅲ（異文化理解）

目 標：母語・文化的背景を異にする者たちが、自分自身を問い直すことを考え、話し合う。その過程で、異なる意見を持つ者と円滑に意見が交換できるようになること、他者と協力して課題を進めることができるようになる。

内 容：対話形式で書かれた長い文章（日本語、6000字程度）を読んで、自分の考え・意見をグループのメンバーにわかりやすく伝える。聞き手は他者の考え・意見を聴き、意見を述べる。他者との意見交換が円滑にできるように、グループ間の人間関係を構築する過程を経験する。

教 材：『Jポップで考える哲学—自分を問い直すための15曲』（講談社文庫）

・ ABP 基礎日本語Ⅳ（講義理解）

目 標：専門的なテーマの20分程度の講義（録画）を見て理解することができるようになる。

内 容：講義を聴く前提知識となる資料を事前に読み、講義を聴きながらメモを取る。メモをもとに、講義の内容を整理してノートを作った後、講義内容について他の学生と話し、わからないところをお互いに教え合う。

教 材：『留学生のためのアカデミックジャパニーズ動画で学ぶ大学の講義』（スリーエーネットワーク）

・ ABP 基礎日本語Ⅴ（アクティブ・ラーニング）

目 標：①自分の日本語能力を具体的な状況や目的に合わせて適切に発揮できるようにする。

②日本語を基調とする活動を、自分で考え、手段を選択し、遂行できるようにする。

③既習の日本語を駆使して他者と話し合い、理解しあうことで、より効率よく目標を達成できるようにする。

内 容：ア）今後の目標を決め、充実した大学生活を送るための計画を立てる。

イ）自分が今どんな状況・環境におかれているのか、そこではどんなことが可能なのか、これから自分に何が求められるのかを調査し、把握することで、大学生活への意識を高める。

ウ）互いの主張を明確に述べ、互いの立場を理解したうえで意見を交わし、他者とのインタラクションを通じて物事を多角的に捉えるトレーニングを行う。

エ）常に他の可能性を見据えながら作業に取り組む柔軟な姿勢を必要とする実践的なトレーニングを行う。

教 材：なし

・ ABP 基礎日本語Ⅵ（日本語文法）

目 標：上級の日本語学習者に必要な日本語文法を学ぶ。日本語を体系的に見る能力を養い、日本語を理論的に分析できる能力を身につける。

内 容：日本語の基本文型から複文の構造まで学び、これまでに習っている文法知識を体系的に再構築する。学習者自らが自身の文法知識を考えるメタ言語的な活動を中心に、上級者に必要な文法知識を構築する。

教 材：オリジナルテキスト

・ ABP 基礎日本語Ⅶ（レポート作成）

目 標：書くことに慣れ、構成に従って書くことに慣れる。アカデミックな文章の構成について知る。

内 容：文章の内容による構成の違いを知る。まず始めに物語文の構成を知り、構成に従って書く練習をする。その後、説明文の構成を知り、最後にレポートの書き方を学ぶ。

教 材：なし

・ ABP 基礎日本語Ⅷ（質問紙調査）

目 標：質問紙調査を通じて、普段、疑問に思っていることを調査し、結果をまとめて口頭で発表するとともに、レポートとしてまとめることを学ぶ。

内 容：質問紙調査用紙の作成を通じて、質問の意図を適切に伝える表現を身につける。数量的な調査結果をまとめて、結果と考察を書くことができるようになる。調査結果を言葉だけでなく、図・表・絵・スライドなどを利用してわかりやすく説明することができるようになる。

教 材：なし

・ ABP 基礎日本語Ⅸ（漢字・語彙）

目 標：日本語能力試験N2レベルの漢字・漢字語彙をより詳しく学び、使えるようになる。

内 容：漢字の読み方とその漢字を使った語彙を覚え、漢字ごと、あるいは漢字語彙ごとの詳しい使い方を学ぶ。また、適切な字形で漢字を書く練習をし、漢字・漢字語彙の適切な使い方を考える。

教 材：『上級・超級日本語学習者のための考える漢字・語彙 超級編』（ココ出版）

・ ABP 基礎日本語Ⅹ（発音）

目 標：(1)自然な速さの日本語を聞いて理解し、自然な速さで話せるようになる。
(2)日本語の自然な韻律をイメージして話せるようになる。

内 容：発音の練習方法である「シャドーイング」を身につける。その過程で、自然な速さの日本語を聞いて理解し、日本語の口語表現（話し言葉）を練習する。シャドーイングを通じて、自然な速さで日本語が話せるようになり、また、自然な韻律で話せるようになる。

教 材：『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』（くろしお出版）

• ABP日本の社会

- 目 標：日本人の生活様式や習慣など、社会生活を知る上で必要な情報を得るとともに、風土や文化を学び、日本をより深く理解する。
- 内 容：写真や動画などを見ながら日本社会の特徴を捉え、関連する語句を学ぶ。
- 教 材：なし

• ABP日本の歴史

- 目 標：日本の歴史の大まかな流れを把握するとともに、基礎的な知識を習得する。また各時代に発明された身近なモノ（技術や文化）を通して、日本の歴史についての興味・関心を高める。
- 内 容：日本の古代から説き起こして現代までを講義形式で概観する。授業にあたり、受講生は毎回配布する予習・復習プリントに取り組む。また、時代ごとに発明されたモノ（技術や文化）について講義する。
- 教 材：なし

• ABP日本の地理

- 目 標：日本の国土及び地理的特徴を理解し、各地域の歴史的背景や気候・位置的条件を含めて、日本地理についての正しい知識を持てるようになる。
- 内 容：北海道から沖縄までの日本の地理的環境や各地域の特色、県庁所在地などを学習する。
- 教 材：『読むだけですっきりわかる「やり直しの日本地理」』（宝島社）

• ABP日本の政治

- 目 標：日本の政治制度の仕組み、特徴等を学習し、今後の課題、世界での日本の役割期待を考える。
- 内 容：日本の政治制度の歴史、特徴を知り、仕組みがわかるようになる。また、少子高齢化、気候変動など地球規模の問題への取り組みについて学ぶ。
- 教 材：『2019 新政治・経済資料 三訂版』（実教出版編修部）

• ABP日本の経済

- 目 標：日本経済の発展要因を理解したうえで、日本人の幸福感、世界での日本の役割期待を考える。
- 内 容：日本経済発展の歴史とその発展の背景を学び、経済の国際化と「日本的経営」を理解する。また、マネー意識、勤労観、地方経済について理解する。
- 教 材：『2019 新政治・経済資料 三訂版』（実教出版編修部）

• ABP基礎数学

- 目 標：大学での講義で要求される数学の基礎知識を日本語で身につける。
- 内 容：日本の高等学校で学習する数学の内容を確認し、計算技術を習得する。

教 材：なし

• ABP 基礎物理学

目 標：大学の理系で学ぶために必要な高校レベルの「物理の基礎知識」を習得する。
学習内容：物理学は自然科学の中でもっとも基礎的な学問の1つであり、自然界で起こっている現象がどのように理解されるのか、自然界を支配する根本原理が何なのかを問う学問である。この科目では、「力学」、「熱・統計力学」、「波動」、「電磁気学」の考え方と、「物質を構成している原子・分子」について学ぶ。

教 材：『基礎物理学第4版』（学術図書）

• ABP 基礎化学

目 標：化学の基礎を理解することにより、日常生活において化学的な観点や思考を養う。

内 容：原子や分子の構造と化学的性質がどのように関係しているかを学習する。また、熱や電気といったエネルギーの生成を化学反応の観点から理解する。

教 材：『基礎コース 化学』（東京化学同人）

• ABP 基礎生物学

目 標：多様な文化や教育を背景とする留学生を対象に、生命科学の基本を「生命をどのように捉えるか」の視点で、その手法を身につける。

内 容：生命をどのようにとらえるか、を(1)生命は何をしてきたか、を地球環境の中での35億年の進化を考え、(2)生命活動の基本であるエネルギー生産の生化学や遺伝子を理解するための基本を押さえ、(3)現在の多様な、そして変わりつつある環境の中でどのような生命活動が行われているかを学び、考える。

教 材：なし

• ABP 基礎統計学

目 標：大学で学ぶために必要な、統計学の入門的知識を身につけることを目標とする。

内 容：統計の基本的な概念について学習する。

教 材：『らくらく統計学』（ムイスリ出版）

3. 浜松キャンパスにおける初学期教育について

3. 1. 受 講 者

ABP 5期生14名の所属学部は以下のとおりである。

工学部・機械工学科	4名	工学部・電気電子工学科	1名
工学部・電子物質工学科	1名	工学部・科学バイオ工学科	1名
工学部・数理システム工学科	3名	情報学部・情報学科	4名

（ベトナム国籍11名、タイ国籍1名、インドネシア国籍1名、ミャンマー国籍1名）

3. 2. 時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2時限 8:40-10:10					ABP 基礎統計学
3・4時限 10:20-11:50		ABP 基礎物理学	ABP 基礎生物学	ABP 基礎数学	ABP 基礎化学
5・6時限 12:45-14:15	ABP 基礎日本語 I	ABP 基礎日本語 II	ABP 基礎日本語 III	ABP 基礎日本語 IV	ABP 基礎日本語 V
7・8時限 14:25-15:55	ABP 基礎日本語 VI	ABP 基礎日本語 VII	ABP 基礎日本語 VIII	ABP 基礎日本語 IX	ABP 基礎日本語 X

3. 3. 各科目の内容

- ABP 基礎日本語 II, V (作文) (週2コマ×15週)

目 標：中級レベルの文章表現を学び、レポート作成に必要な基本的なスキルを習得する。

内 容：所属する学部や静岡県に関する内容を扱った本学オリジナルの教材を使用しながら話し言葉と書き言葉の違いや、引用の仕方、グラフの読み取りと説明の仕方などを学ぶ。

教 材：オリジナル教材

- ABP 基礎日本語 I, III (プロジェクトワーク) (週2コマ×15週)

目 標：プロジェクトワークを通して、口頭発表や意見交換ができるようになる。

内 容：学生にとって身近な社会文化的なテーマを取り上げ、様々な課題に取り組む。教室内外の結びつきを重視したインタビュー調査や国際交流イベントの企画なども実施する。

教 材：オリジナル教材

- ABP 基礎日本語 VI, VII, VIII, X (文法・読解) (週4コマ×15週)

目 標：講義やレポート作成、学生生活で必要となる表現を学ぶ。

内 容：速読や精読を通して、中上級レベルの文法、語彙、漢字を習得する。

教 材：『学ぼうにほんご！中上級』（専門教育出版）、配布資料

- ABP 基礎日本語 IV (語彙) (週1コマ×15週)

目 標：講義やレポート作成などで必要となる表現と語彙の使い方を理解する。

内 容：基礎日本語 VI, VII, VIII, X の内容をさらに発展させた応用的な表現を学ぶ。

教 材：『学ぼうにほんご！中上級』（専門教育出版）、配布資料

• ABP 基礎日本語IX (聴解) (週1コマ×15週)

目 標：大学での講義や学生生活における場面を中心に扱い、聴解と会話ができるようになることを目指す。

内 容：基礎日本語VI, VII, VIII, Xで学んだ表現が、実際の場面でどのように用いられるのかを理解するとともに、実際にディスカッション等の活動を行う。

教 材：『学ぼうにほんご！中上級』（専門教育出版）、配布資料

ABP理系基礎科目「ABP基礎数学」「ABP基礎物理学」「ABP基礎化学」「ABP基礎生物学」「ABP基礎統計学」については2, 3を参照のこと。